

「本当の自由をあなたに」

ヨハネによる福音書

第8章31節～38節

説教 岡村 恒牧師

「あなたたちは本当に自由になる」(36節)と、主イエスは宣言されました。ここに集まって来た人々は主イエスを信じ始めた人々でした。また、誰かの奴隷になどなったことが無いと言える人々でした。

ここに出てくる“真理”、“自由”、“留まる”といった言葉は、ヨハネによる福音書のキーワードでもあります。その中で“留まる”という言葉はギリシャ語ではメノー(μ ε ν ω)という言葉が使われています。これは“居る”とか“繋がる”とも訳される言葉です。35節の“いる”という言葉も同じです。あなたたちは神の家に“留まる”存在であり、そこで“自由”が与えられるのだと、主イエスは言われるのです。

さて、“留まる”とは、「枝が木に繋がる」とか、「羊が羊飼いのもとに留まっている」と言う事です。自由と繋がるというのは全く逆の話に聞こえます。

主イエスの時代、今のような自由は無く、多くのことが強制されていました。ローマ帝国では様々な宗教が容認されていましたが、ただ一点、ローマ皇帝を神として崇拜することだけが強制されました。また、ユダヤ教の社会においては、多くの《律法》が人々をがんじがらめにしていた。現実には奴隷ではなくても、多くの事柄を拒否できず、本当の自由がなかったのです。

しかし今、2,000年後の私たちに対して、主イエスは宣言されます。「あなたたちは奴隷だ!」と。もちろん私たちは、エジプトに居た時のユダヤ人のような奴隷ではありません。しかし主イエスは私たちの真実の姿を描き出して、「はっきりしておく。罪を犯す者はだれでも罪の奴隷である。」(34節)と言われるのです。神に心を向けて歩むことができない全ての人は罪の支配の中にあり、生まれながらにして罪の奴隷なのです。

奴隷は、いつまでも家に居ることができません。相続人ではないからです。罪の奴隷である私たちは、永遠の滅びの中へとやがて追い立てられるのです。それが、あなたの実態だと主イエスは言われます。この滅びから人間の力で脱出することはできないのです。

しかし、主イエスは語り始めます。唯一、そこから解放される道がある、それは真実そのも

のである私と共に生きることだと。「わたしは道であり、真理であり、命である。」(14章6節)と、主イエスは言われるのです。主イエスは、ご自分の所に“留まり”続けなさいと言われます。わたしと共に生きたら良いと、言われるのです。主イエスは「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。」(15章5節)と言われます。枝が空中を漂って、自力で幹に繋がるのではありません。農夫である父なる神様が枝をぶどうの木につなげて生かして下さるのです。『あなたは、わたしから、命を得ているのです』と、言って下さるのです。これは、主イエス・キリストの約束の言葉です。

ヨハネによる福音書を読むと、必死で木にしがみつきなさいと、主イエスは言われません。私たちが胸に手を当てて振り返る事を求められます。罪に縛られていないか?がんじがらめにされて奴隷となっていないか?と。

主イエスは私たちに、本当に必要なものを与えて下さいました。誰でも御子を信じる者はひとりも滅びないで、罪と死の拘束から解放され“自由”になる、という約束です。これが、本物の福音、救いの約束です。主イエスは、自由を約束して下さいました。その為に来て下さった神の子です。私たちに本当の命を与えて下さる救い主です。

主イエスを信じる時、私たちは自由にされます。罪の支配から解放され、神の支配の中を生きる者とされます。その時、神以外のものは力を失ってしまいます。私たちが神に繋がって、神の命の中に留まって生きるとはそういうことです。十字架にかかる前に主イエスはこの約束を語り、十字架の上でこの約束を実現して下さいました。私たちは神の力の中で生きるのです。神と共に、キリストに留まるのです。この約束は確かであり、慰めです。私たちは、キリストと共に生きたら良いのです。

神では無いものが、私たちが奴隷のように縛りつけることなどもうできません。神によって自由を手にして歩むことが許されるからです。私たちは皆、自分ではとうてい逃げ出せない所から解放され、主イエスに繋がれて生きる道へと招かれています。神を信じる信仰を与えられて、本当の自由を手に進むことができるのです。

(記 説教要約奉仕者)